

Canta! Timor

うたえ！ティモール

監督：広田 奈津子
助監督/音楽監修：小向 サダメ

監修：中川 敬 ソウル・フラワー・ユニオン
南風島 涉 フォトジャーナリスト「いつかクロサエの森でーー」著

スチール：小幡文人 / 直井保彦

ドキュメンタリー/カラー/DV/110分/4:3/ステレオ
2012年東ティモール・日本・日・英・テトゥン語
字幕:日・英・仏・テトゥン語/自主制作・初監督作品

公式サイト www.canta-timor.com

舞台は南海に浮かぶ神々の島、ティモール。

ひとつの歌から始まった運命の旅が、音楽あふれるドキュメンタリー映画となった。

この島を襲った悲劇と、それを生き抜いた奇跡の人びと。その姿が、世界に希望の光を投げかける。

当時23歳だった日本人女性監督は、人びとの暮らしの中で現地語を学び、彼らの歌に隠された本当の意味に触れてゆく。そして出会う、光をたたえるまなざし。詩のようにつむがれる言葉の数々。それは観る者の胸をそっと貫き、決して消えない余韻となる。

日本が深く関わらながら、ほとんど報道されなかった東ティモールの闘いをとりあげた、国内初の長編。

自主映画ながらも感動は国境を越え、5カ国100カ所以上の試写会で会場が心を震わせた、愛すべきエチュード。

3.11以降の日本人の生き方のヒントが、この映画にはつまっている。

STORY 東ティモールで耳にした、ある青年の歌。日本帰国後もメロディが耳に残って離れない。

監督たちは青年を探すため島へ戻る。そして一つの旅が始まった――

「ねえ仲間たち ねえ大人たち 僕らのあやまちを 大地は知っているよ」

歌はこう始まっていた。

直接的な言葉を歌えば命に危険が及ぶ、インドネシア軍事統制下にひっそりと歌われた歌だった。

青年に連れられて、監督たちは島の奥へと入っていく。

そこに広がるのは、精霊たちと共にいる暮らし。青い海、たわわに実るマンゴー、はじけるような笑顔の人々。

常夏のおおきな太陽に照らされ、深い影を落とすのは、人々の命を奪った軍事侵略。

報道にのらない地下資源ビジネス、日本の驚くべき行動。

3人に1人が命を落としながら、彼らが守り抜いたもの――

「悲しい。いつまでも悲しみは消えない。でもそれは怒りじゃない。怒りじゃないんだ。」

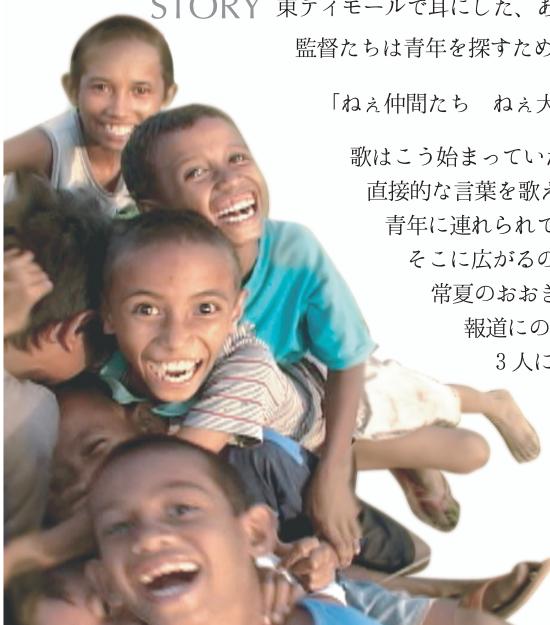
「人は空の星々と同じ 消えては 空を巡り また必ず 君に会える」

弾丸が飛び交う中、人々は命をわけるように助け合い、そして笑い、歌った。

大地に生かされ、輪になって踊る、遠く懐かしい風景。

いつのまにか、ティモールの旅はそっと監督たちに問いかける。

愛すべきふるさと、日本の島々の姿を――



映画上映 + 広田奈津子監督トークショー

★東ティモールのおいしい有機栽培珈琲 ドリップパック付き(当日のお渡し)

上映日時: 2013年10月10日(木) 12時40分から 上映会場: 川崎市アートセンター アルテリオ映像館

9月20日(金)よりチケット販売

●チケット料金 前売800円 当日1000円

高校生以下／専門生・大学生／障がい者とその介助者(1名まで)は前売料金

【インフォメーション】

映画の中に暴力的・衝撃的なシーンが含まれています。お子様や心配のある方の鑑賞はご遠慮ください。またその旨をご了承いただいた上でご鑑賞ください。

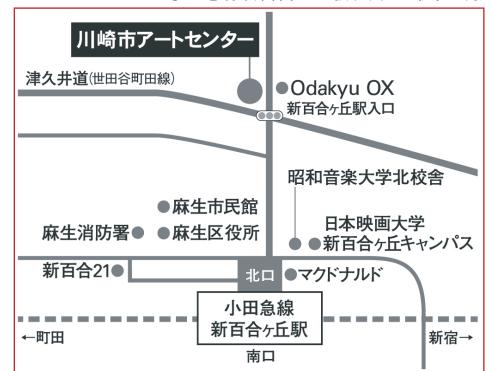
お問い合わせ

NPO法人KAWASAKIアーツ・映画祭事務局
電話: 044-953-7652 FAX: 044-953-7685

●会場アクセス

川崎市アートセンター アルテリオ映像館
神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1

※小田急線新百合ヶ丘駅北口より徒歩3分



映画祭ホームページ

<http://www.siff.jp>